



賀 春



長崎市議会議長

熊 政直

私たちのまち長崎の 活性化に向けて

あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、幸多き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年4月の改選により、市議会は新たな体制でスタートしました。

現在、長崎市は取り組むべき課題が山積しており、将来のまちづくりを進めるうえで重要な時期を迎えています。これまで、4つの常任委員会に加えて、「地方創生対策」、「世界遺産・観光客受入対策」及び「長崎駅周辺再整備」の特別委員会を設置するなど、市民の皆さまが明るく豊かに暮らせるまちを目指し、市政に関する活発な議論を重ねてまいりました。今後とも、議会のチェック機能を最大限に発揮し、市民の皆さまの負託に応えられるよう努力してまいります。

今年は、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録が審議されます。「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」に続き、長崎市が2つの世界遺産を持つまちとなることが期待されます。また、昨年、過去最高を記録した長崎へのクルーズ客船寄港数も、今年はさらなる増加が見込まれております。この好機を逃さず、長崎をさらに活性化させるためには、外国人を含む観光客の皆さまにいかに対応していただけるかが重要であり、市全体で取り組む必要があります。

また、長崎市議会をより身近に感じていただける新たな広報手段として運用しているフェイスブックが、地方議会関連フェイスブックの中で、登録者数日本一となりました。今後とも「開かれた議会」を目指し、積極的な情報発信に努めてまいります。

平成28年が、皆さまにとりまして、実り多き年でありますよう心からお祈りいたします。

交流の産業化を目指す 長崎創生がスタート

新年おめでとうございます。

健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、長崎市の8つの資産を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界遺産に登録されたことが、とてもうれしい出来事でした。今年は、さらに「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の登録に向けて全力で取り組み、2つの世界遺産があるまちを実現させたいと考えています。

暮らしの面では、長崎みなとメディカルセンター市民病院が全面開院し、ごみ焼却施設である新西工場が完成し稼働を始めます。また、現在、乳幼児を対象としている医療費の助成について、小学生まで拡大し子育て環境の向上に取り組めます。

今、長崎市では人口減少・超高齢社会といった時代の大きな転換期を迎えており、この大きな変化に対応できるように、昨年、「長崎市よかまちづくり基本条例」を制定しました。みんなが当事者としてできることを少しずつ出し合う「全員プレイヤー型」のまちを目指し、市民の皆さまと一緒にまちづくりに取り組んでいきたいと思えます。

また、今年は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、長崎市版地方創生（長崎創生）に本格的に着手します。現在、長崎のまちには、世界遺産登録や寄港するクルーズ客船の増加により多くの観光客が訪れています。このような長崎の持つ地域資源を活かした「人」の交流によって稼ぐ力を伸ばす「交流の産業化」を総合戦略の大きな柱にして、人口減少の克服とともに「ひとを呼ぶまち」から「ひとを呼んで栄えるまち」を目指していきます。

本年が、皆さまにとりまして、素晴らしい年となりますよう心からお祈りいたします。



長崎市長

田上 富久